

二〇二二年度 大妻中野中学校 海外帰国生入学試験 十月二十四日 問題用紙

(シンガポール会場)

# 国語

受 験 番 号	
番	
氏	名

## 受験上の注意

- (一) この問題用紙は表紙を含めて四ページあります。
- (二) 試験開始後ただちにページ数を確認してください。
- (三) 問題用紙、解答用紙それぞれに受験番号と氏名を記入してください。  
受験番号は算用数字で記入してください。
- (四) 試験時間は四十分です。
- (五) 解答はすべて解答用紙に記入してください。
- (六) この試験は百点満点です。

□ 次の文章をよく読んで、あとの問いに答えなさい。(字数は記号・句読点も一字と数えます。なお、出題にあたって本文に一部改変があります。)

今、日本でも欧米でも、西洋哲学と近代科学を唯一のよりどころとして文明を推し進めてきたことを反省しようという動きが強まっています。早速に新たな発想を取り入れていかないと地球は崩壊してしまふ、と。西洋哲学は、主体性をもっているのは人間だけであるというスタンスです。近代科学にとって、環境は人間が管理するものです。環境を変えることで人間に都合のよい世界をつくっていくことが大事であり、技術はそのためにあるという考えです。こうして主体と客体をはっきり分け、自然を管理してきた結果、今日のような大規模な自然破壊が起きました。プラネタリー・バウンダリーという言葉聞いたことがあるでしょうか。これは、「地球の限界」ともいえるもので、「それを越えなければ人類は将来も発展と繁栄を続けられるが、越えようと、急激な、あるいは取り返しのつかない環境変化が生じる可能性がある」境界のこと。今すでに九つの項目のうち四つが境界を越えたとされています。

こうした中で注目されているのが、東洋哲学の中にある「容中律」(肯定でも否定でもなく、肯定でも否定でもある、とする論理)の概念なのです。これは、0か1、その間を許さない西洋発の概念「排中律」(どのような命題も真か偽のいずれかであるとする論理)の逆を行くもので、わかりやすいえば、両方の存在を許すことです。日本には、20世紀の前半から、西田幾多郎や和辻哲郎ら、人間と自然を一体化して捉える学者が登場していました。多くの大師匠の今西さんも、人間以外の生物にも主体性があり、環境と生物種は相互に影響を与え合って「生活の場」をつくっていると主張していました。

「移民か、移民でないのか」「アメリカに利するものかそうでないか」「敵か味方か」「お前はどっちか」と迫るアメリカのトランプ大統領の発想はまさに排中律です。「どちらでもある」ということが言えれば世界は変わるのに、それができずに、世界は行き詰まりを見せています。だから、それを解決する手段として「容中律」という哲学、科学のあり方が模索されているのでしょうか。

今、世界はとことん正解しか求めません。それが分断につながっています。世界は本来、「実は正解がいくつもある」というものに満ちています。たった一つの正解に至らなくても、決定的に不正解に陥らなければ、戦争も起きないし、命も失われません。

考えてみれば、今のデジタル社会も、0か1かという発想でつくられています。その中間も、「どちらもある」という考え方も許されません。それも排中律の概念に基づくもので、だからデジタル空間には「間」がありません。「仲間なのか、仲間ではないのか」と迫るSNSの世界がまさにそうでしょう。仲間でありつつ仲間でないという発想がなぜできないのか。どちらにも属するかもしれないし、どちらにも属さないかもしれないという「間」の発想が世間一般に広がれば、もっといろいろなことが楽になるはずです。ネットワーク社会の特徴である点と点とのつながりを、弱点ではなく利点として応用すればいいのです。

(山極寿一『スマホを捨てたいこどもたち』ポプラ新書より)

問い。この文章の後半（形式段落三段落目から後）で、筆者の主張していることを六十字以内でまとめなさい。その際、必ず次の言葉を含むようにしなさい。

「間」世界の諸問題 解決

# 世界の諸問題

下書き用 解答は必ず解答欄に書いて下さい。こちらは採点の対象になりません。

[illegible]

次の各問いに答えなさい。

## A 漢字に関する問題

問一． 次の①～⑩の――部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 野党が与党に対してリンジ国会を開くよう要求した。
- ② うれしいことに、夏の甲子園で母校がユウシヨウした。
- ③ 夜間の滞留人口がかなりミツになっていて心配だ。
- ④ 東京オリンピック・パラリンピックがヘイカイした。
- ⑤ 彼女の突然の提案に一同がナンシヨクを示した。
- ⑥ お客様の玄関先まで直接配達員がお届け致します。
- ⑦ 用事が済んだらすぐに帰ってきてください。
- ⑧ 今年の夏の旅の思い出を心に深くギザみこんだ。
- ⑨ 目の前の水面にウツる富士山の姿に感動した。
- ⑩ 今年も八百屋さんの店先にスイカの並ぶ季節となった。

## B ことわざ・慣用句に関する問題

問二： 次の①～⑤の意味を持つ慣用句の空欄を補うのにふさわしいからだの一部を、後の語群から選び、記号で答えなさい。

- |                           |                      |       |
|---------------------------|----------------------|-------|
| ① ひどく驚いたり関心したりして言葉もでないようす | <input type="text"/> | を巻く   |
| ② 気分がすっきりすること             | <input type="text"/> | がすく   |
| ③ 相手が強く、とてもかなわないこと。       | <input type="text"/> | が立たない |
| ④ 相手を見下して、冷たく対応すること。      | <input type="text"/> | であしらう |
| ⑤ だまされること。                | <input type="text"/> | にのる   |

語群

ア・頭      イ・歯      ウ・手      エ・腰      オ・舌      カ・尻      キ・爪      ク・胸      ケ・目      コ・鼻

## C 文法・言葉づかいに関する問題

問三： 次の①～⑤の各文について、誤りを含まないものには○を、誤りを含むものには×を解答用紙に書きなさい。

- ① お忙しい中、お越しくださり、まことにありがとうございます。
- ② あの書類については、私がそちらに午前中にはお届けします。
- ③ お待たせしました。ご乗車いただくバスが参りました。
- ④ 長旅でお疲れのせいか、お客様はすぐにお休みになりました。
- ⑤ 父が先生に明日会いたいとおっしゃっていました。

問題は以上です。